



ぜんそく…昼間大丈夫でも油断禁物

ゼンソク人間学



治療継続でつらい症状から解放を

大道光秀先生

寺川 症状がないとなかなか病院には行きにくいも

寺川 症状がないとなかなか病院には行きにくいものですね。ぜんそくは慢性疾患です。美少女スイマーから五輪メダリストに、そして現在はスポーツキャスターとして活躍する寺川綾さん「ミズノ・シリーズ」「ゼンソク人間学」の今回のお相手は大道光秀先生。ぜんそくは、気温差の大きさが症状に大きく影響することや、早朝・深夜と昼間では症状の出方が異なることなどを聞き出した。

真冬でも換気重要

寺川 北海道は寒冷地ですが、患者さんの地域特性はありますか。

大道 寒暖差の少ない真冬では、寒くても意外に大丈夫だったりします。北海道の家庭は部屋が暖かく外が寒いので、外出時などが要注意です。また、厳しい寒さのため、冬は窓を開けないで暖房をつける家庭が多いのです。するとぜんそくの引き金となるダニやその死骸が部屋にこもりやすくなるので、なるべく窓を開けて換気するように伝えています。

寺川 私は本格的に治療する前、学校に昼間いるときは平気で、苦しくなるのは早朝。それで朝練に行けなくなることもありました。だから昼間にせきが出なくても、夜中や早朝に出続けるという人には専門の病院で調べてもらった方がいいと声をかけています。

大道 そういう方に呼吸器の検査をするとぜんそくと分かるケースがよくあります。ぜんそくは日内変動が大きく、深夜や早朝は症状が出ても、昼間何ともないということも多い。とはいっても診断技術も治療も格段に向上したので正確に診断できるし、早ければ早いほど簡単に症状が治まります。

寺川綾さん

のですね。

ぜんそくは慢性疾患

大道 ぜんそくは糖尿病や高血圧と同じく慢性の病気です。高血圧は自覚症状がありませんが、健康診断で数値が高かった場合、心筋梗塞や脳梗塞の大きなリスクとなることが理解されてきているので、きちんと治療する人も多くなりました。それに比べ、ぜんそくは慢性の病気というイメージがまだまだ浸透していません。そのことを知らず、治療を中断して風邪などをきっかけに悪化し、せき込んだり苦しくなったりするとまた治療。これを繰り返す下し、息切れのため日常生活に支障をきたすこともあります。

寺川 先生は、ご自身の病気がきっかけで医師を目指されたそうですね。

大道 私は1歳のころ、ネフローゼ症候群になりました。体育の授業はずっと見学、医師は病気について細かく説明してくれず、「塩分を控えて」くらい。黙って従いましたが、無塩のパンに無塩のバターをつけておいしくないのを我慢して食べ続けたりと、つらい思いをしました。それで体のことを理解したくて医師になりました。だから私は、ぜんそくをきちんと理解してもらうために、検査結果を見せながら丁寧に説明するよう心がけています。

大道内科・呼吸器科クリニック院長

おおみち・みつひで

1981年札幌医科大学卒業後、札幌医科大学第三内科、市立函館病院、南一条病院、道立北見病院、札幌鉄道病院（現 J R 札幌病院）呼吸器科主任医長を経て、現在、大道内科・呼吸器科クリニック院長

キャスターとしても活躍

てらかわ・あや

大阪府出身。近畿大学附属高校、近畿大学卒業。2004年アテネ五輪200m背泳ぎで8位入賞。12年ロンドン五輪では100m背泳ぎと4×100mメドレーリレーでそれぞれ銅メダルを獲得。今年からスポーツキャスターとして活躍。1児の母。ミズノ所属